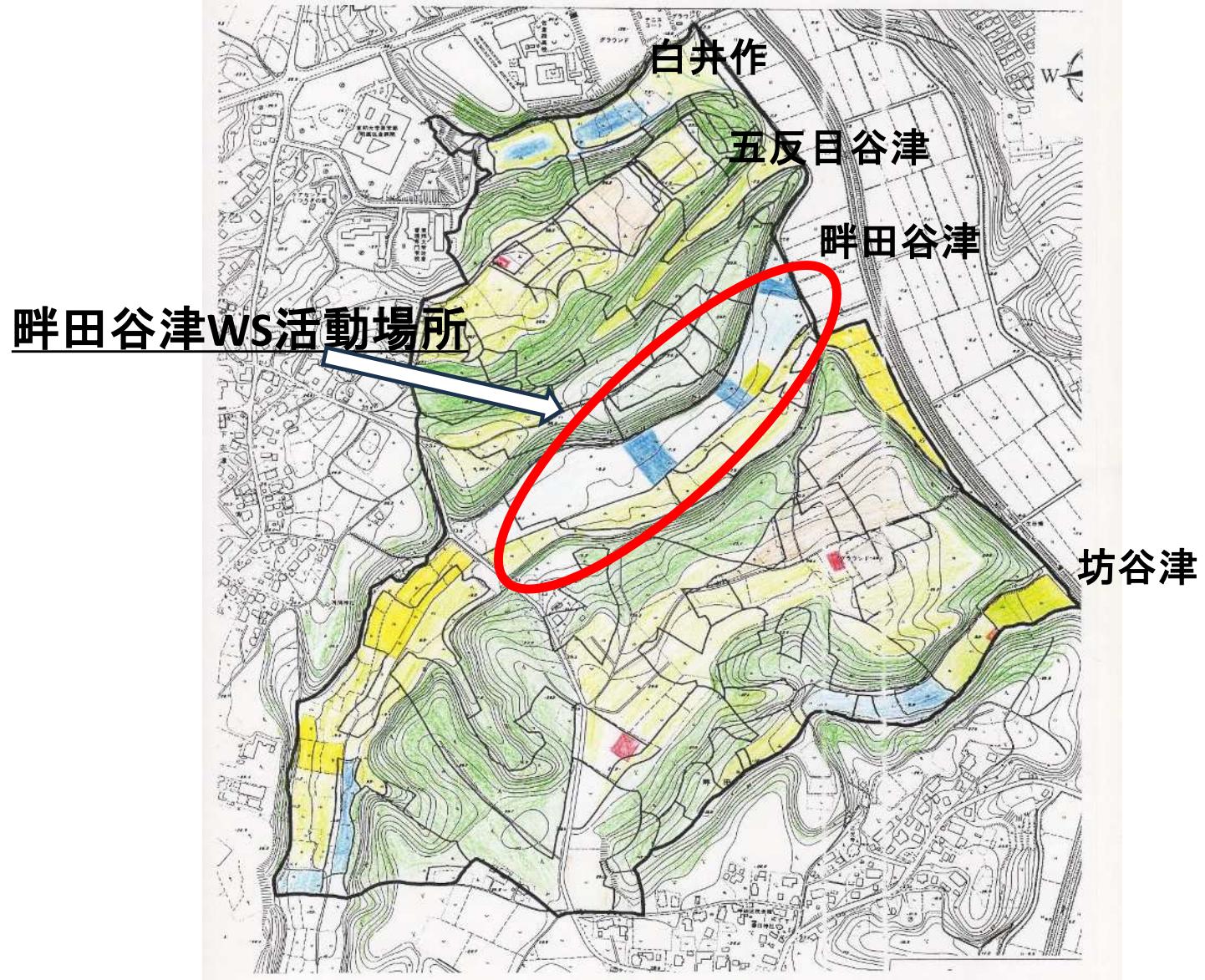


畔田谷津ワークショップの紹介



畔田谷津ワークショップ・美濃和信孝

佐倉里山自然公園



畔田谷津とはどういう場所？



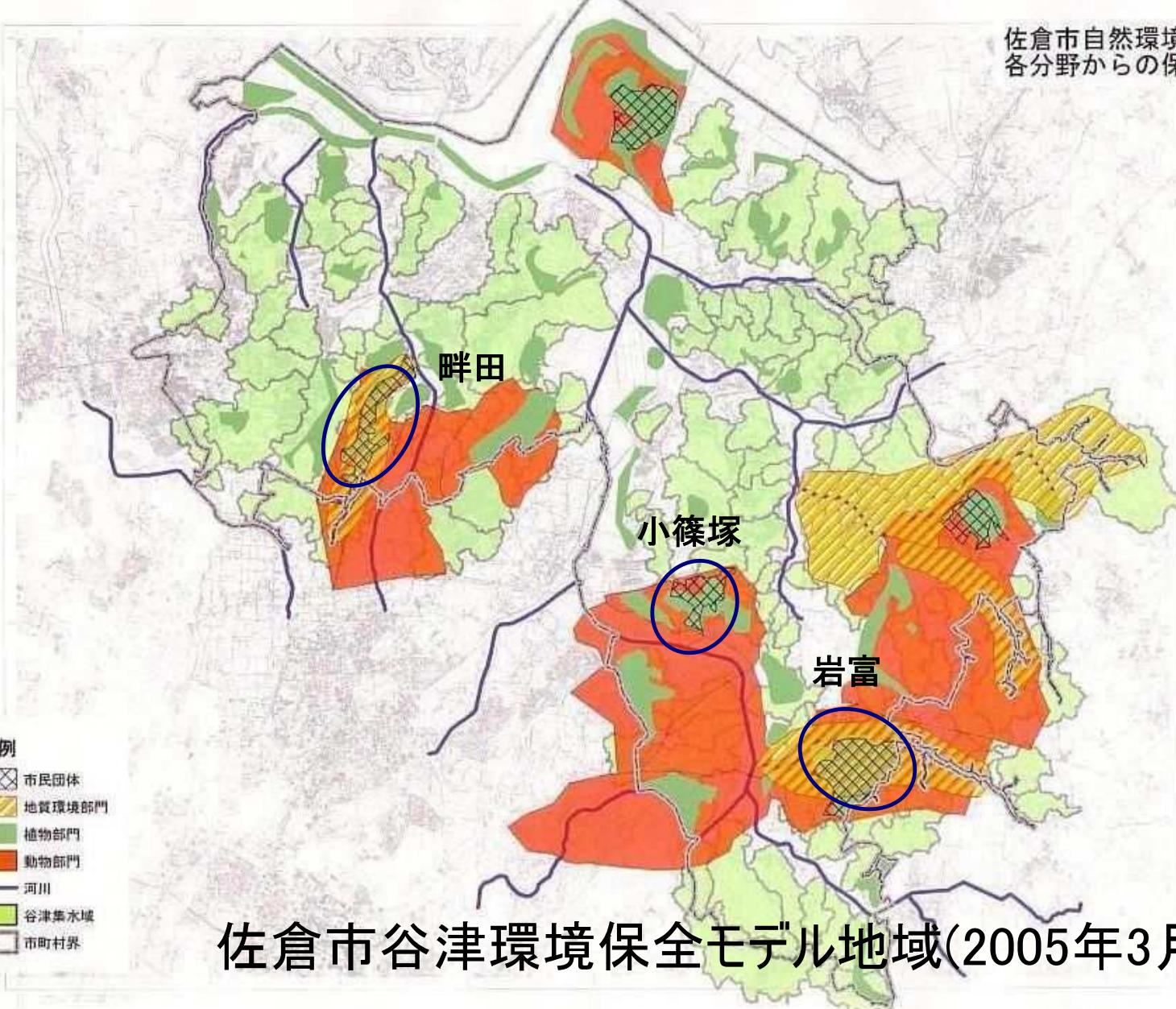
昔ながらの谷津田景観



湿田と段差のない土水路

佐倉市で唯一、圃場整備が為されていない昔ながらの
谷津田が残っている場所だった。

佐倉市自然環境調査における
各分野からの保全提案地域



佐倉市谷津環境保全指針(2006年)

- ①谷津景観の保全
- ②生物・生態系の保全
- ③水源の保全
- ④自然と文化の継承



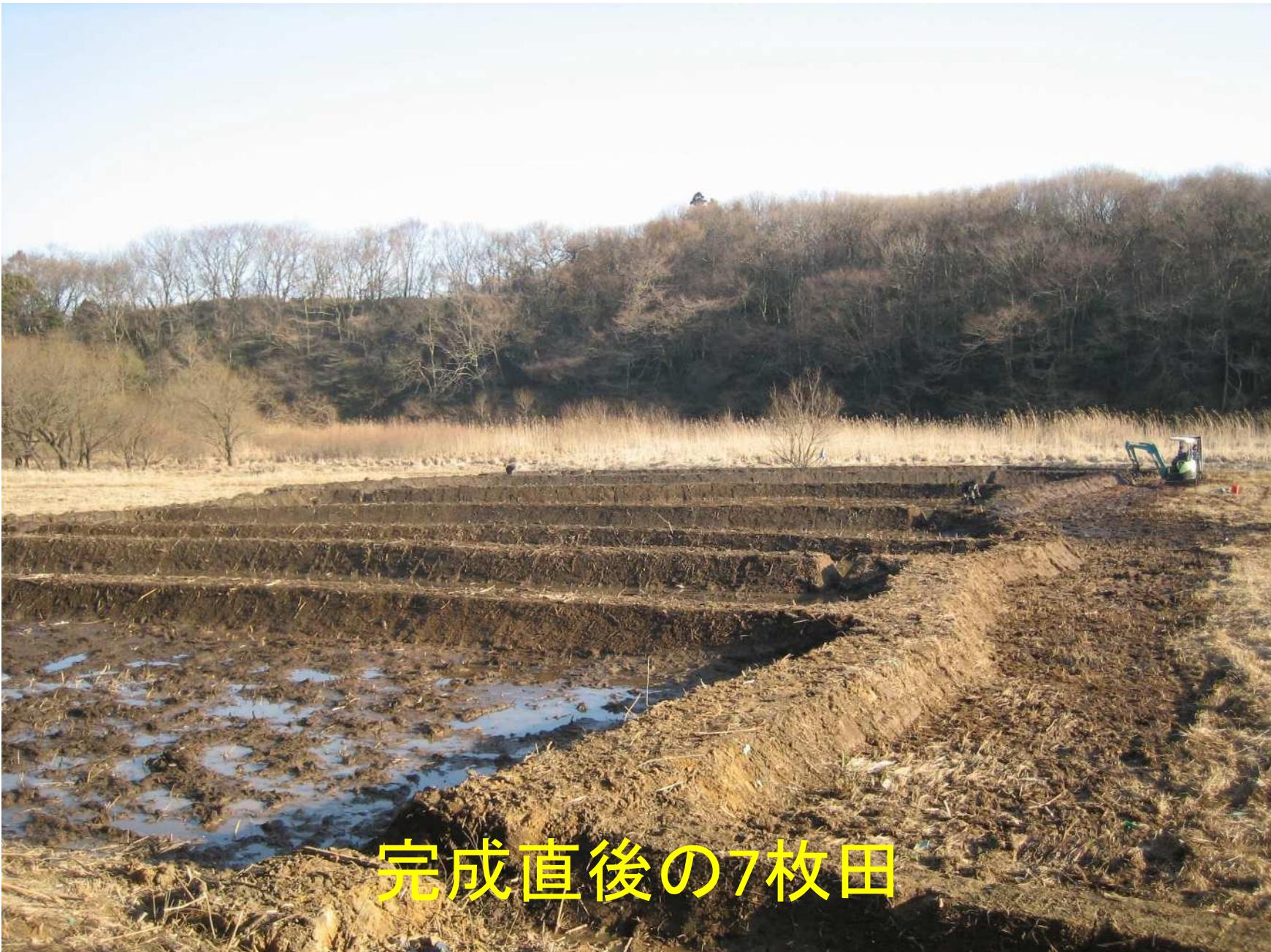
「サシバのふるさと畔田谷津」



2007年3月 3枚田・コナギ湿地の造成



2008年2月 4枚田・7枚田の造成



完成直後の7枚田

春になるとあっという間に草が生える



湿地の草抜き作業



生きもの田んぼ

この田んぼは、生きもの達のための田んぼです。

谷津田のいろいろな生きものがすめるように、水張りや草刈り、草抜きなどの管理をしています。

佐倉市環境保全課・畔田谷津ワークショップ

稻作班・田植え風景



順応的管理（PDCAを回す）

- ① 里山の自然に手を入れ、生物多様性を高めていく上では、「順応的管理」という手法をとる必要がある。
- ② 「順応的管理」とは、草刈等のアクションに対する効果を検証し、次のプランに生かしていくこと。
評価手法 ⇒ **生物調査**
- ③ 実は里山の管理では、これが最も重要で、成果が上がった場合、一番やりがいを感じる部分もある。

ヒレタゴボウ抜き (2012年9月5日 S7、S8)





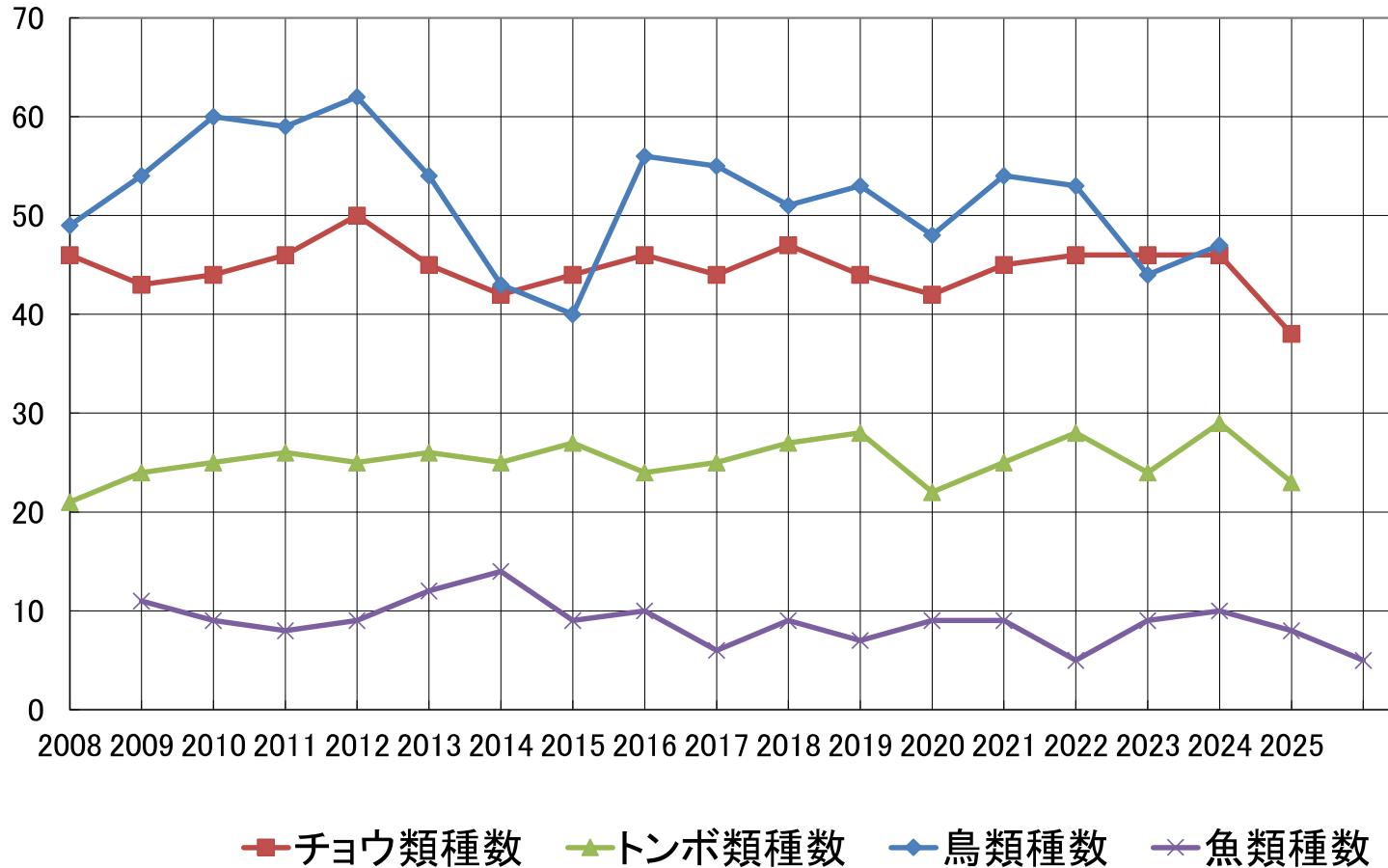
アイオオアカウキクサ除去(2016年6月4日S9-6,7)



生物調査班活動

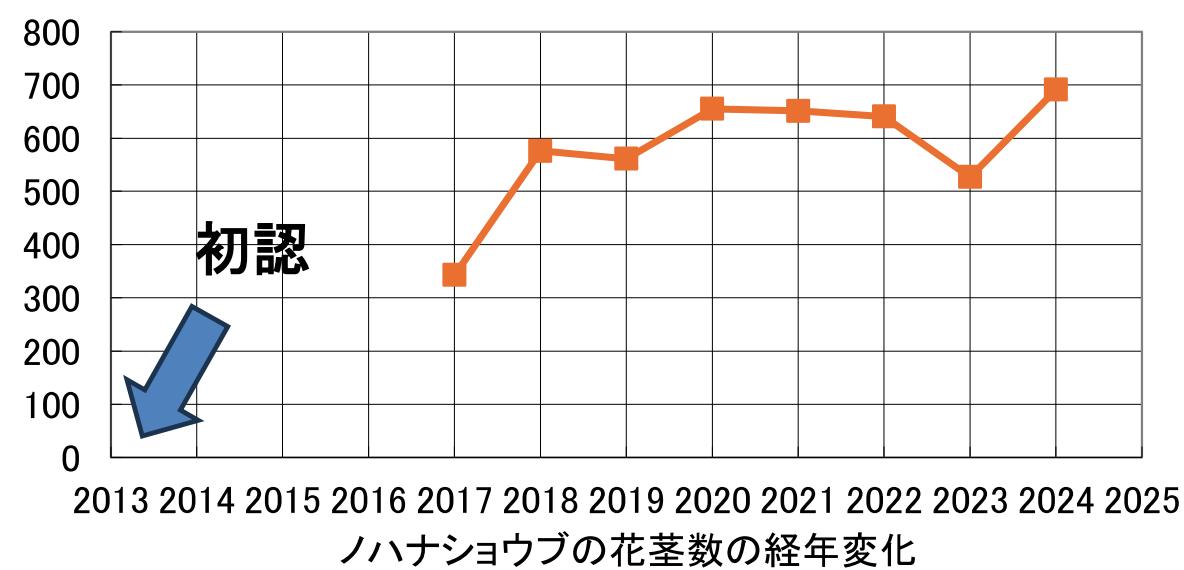
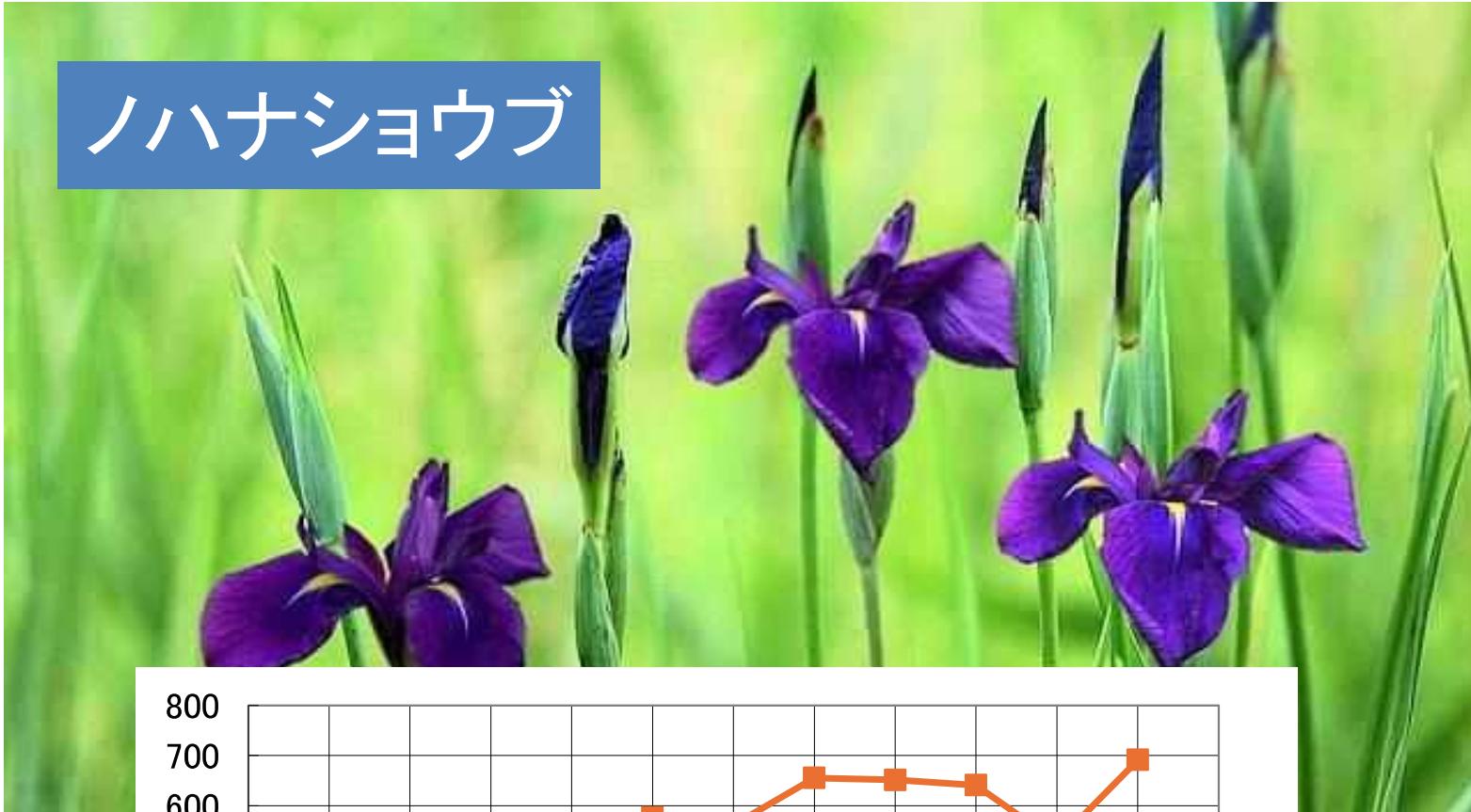
現在7つの生物調査班活動があり、その調査結果を毎年調査報告書としてまとめている。

- ①植生
(②植物標本)
- ③鳥類
- ④サシバ
- ⑤両生類
- ⑥魚道
(⑦水生生物)
- ⑧チョウ・トンボ
- ⑨ヘイケボタル

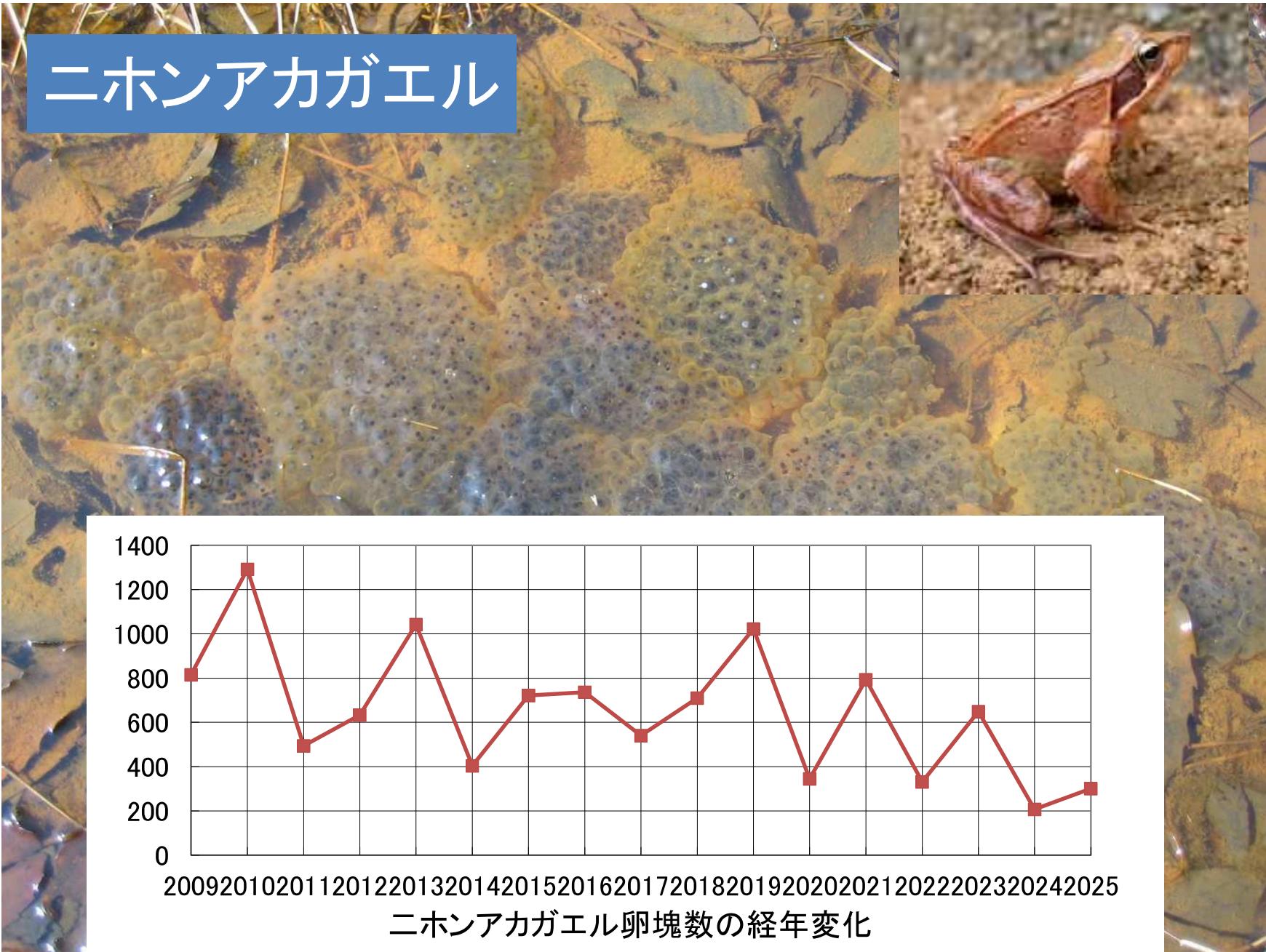


鳥類、魚類、トンボ、チョウの種数の経年変化

ノハナショウブ



ニホンアカガエル



アカガエルが生息できる条件

- ①早春、浅く水がたまっている場所があること。
- ②近くに林があること。

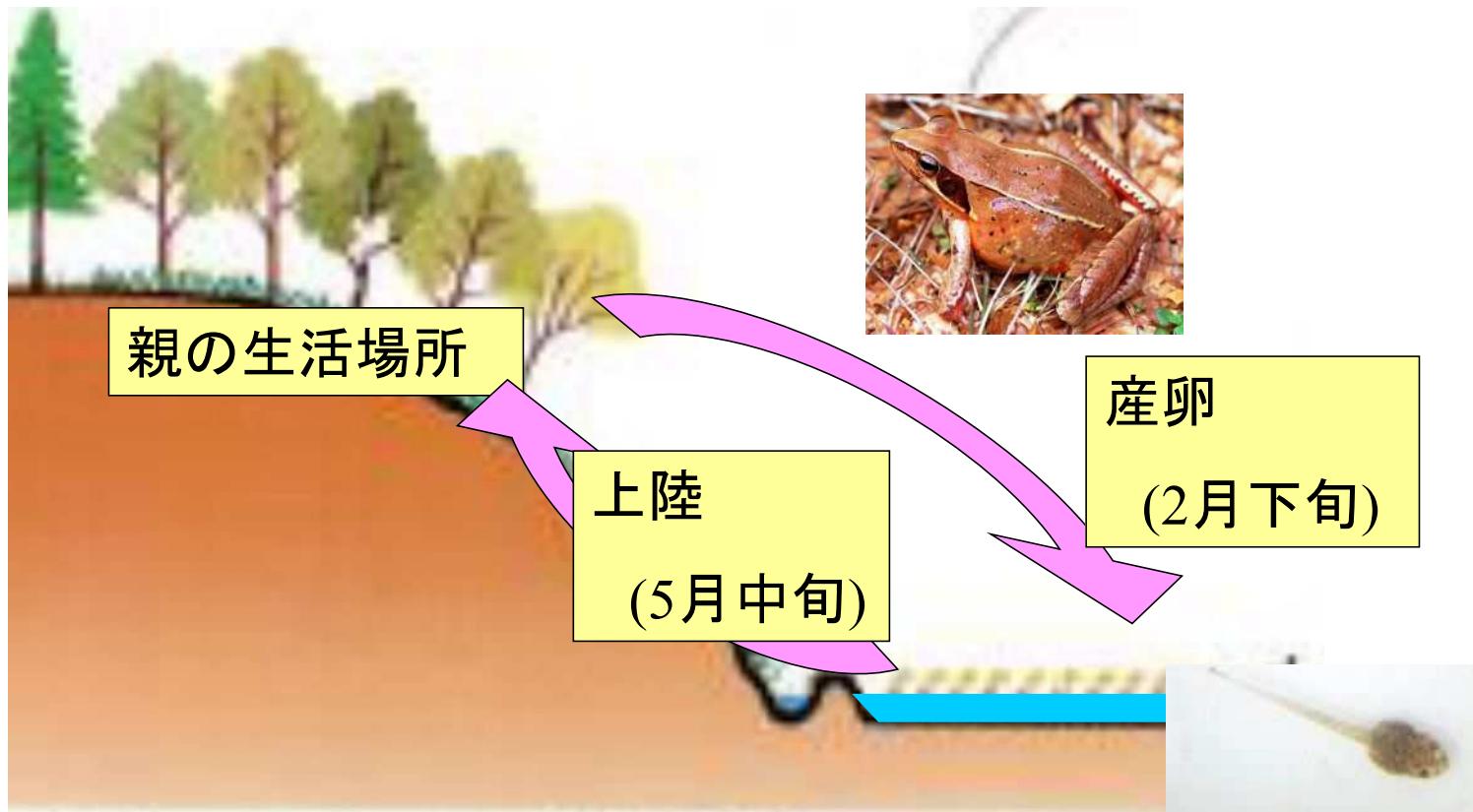


Fig. ニホンアカガエル卵塊数密度
(2011年)

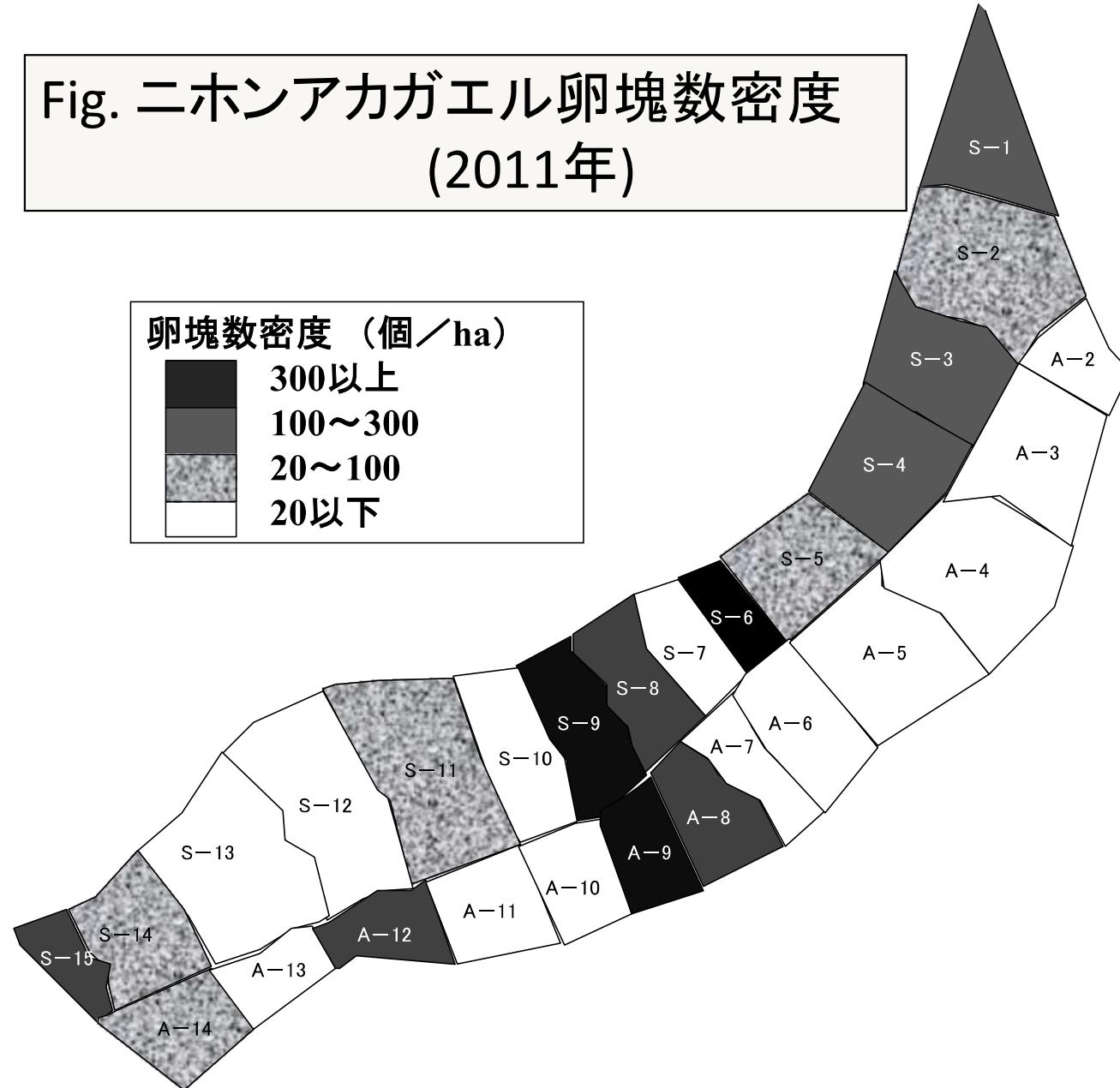
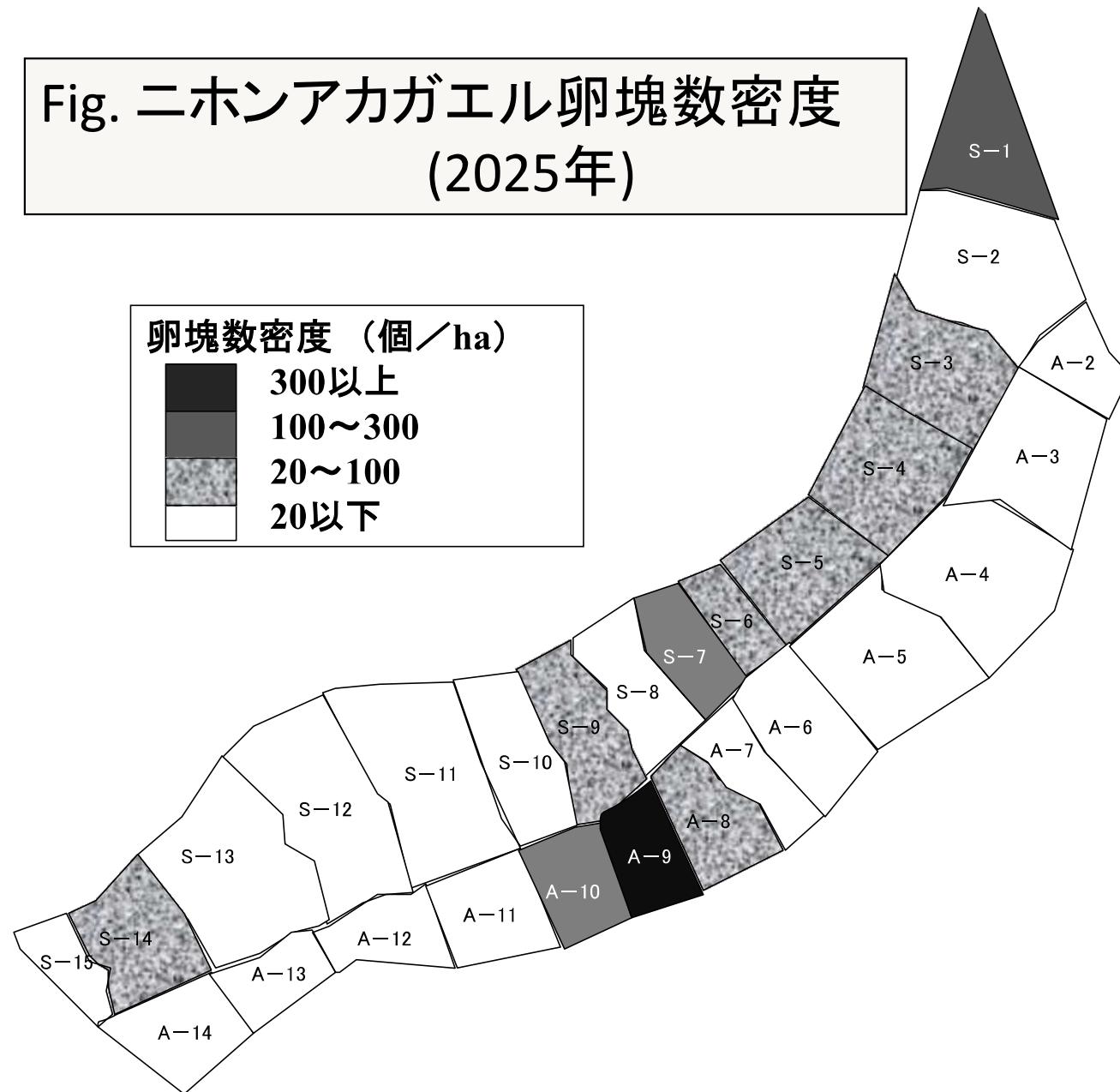


Fig. ニホンアカガエル卵塊数密度
(2025年)



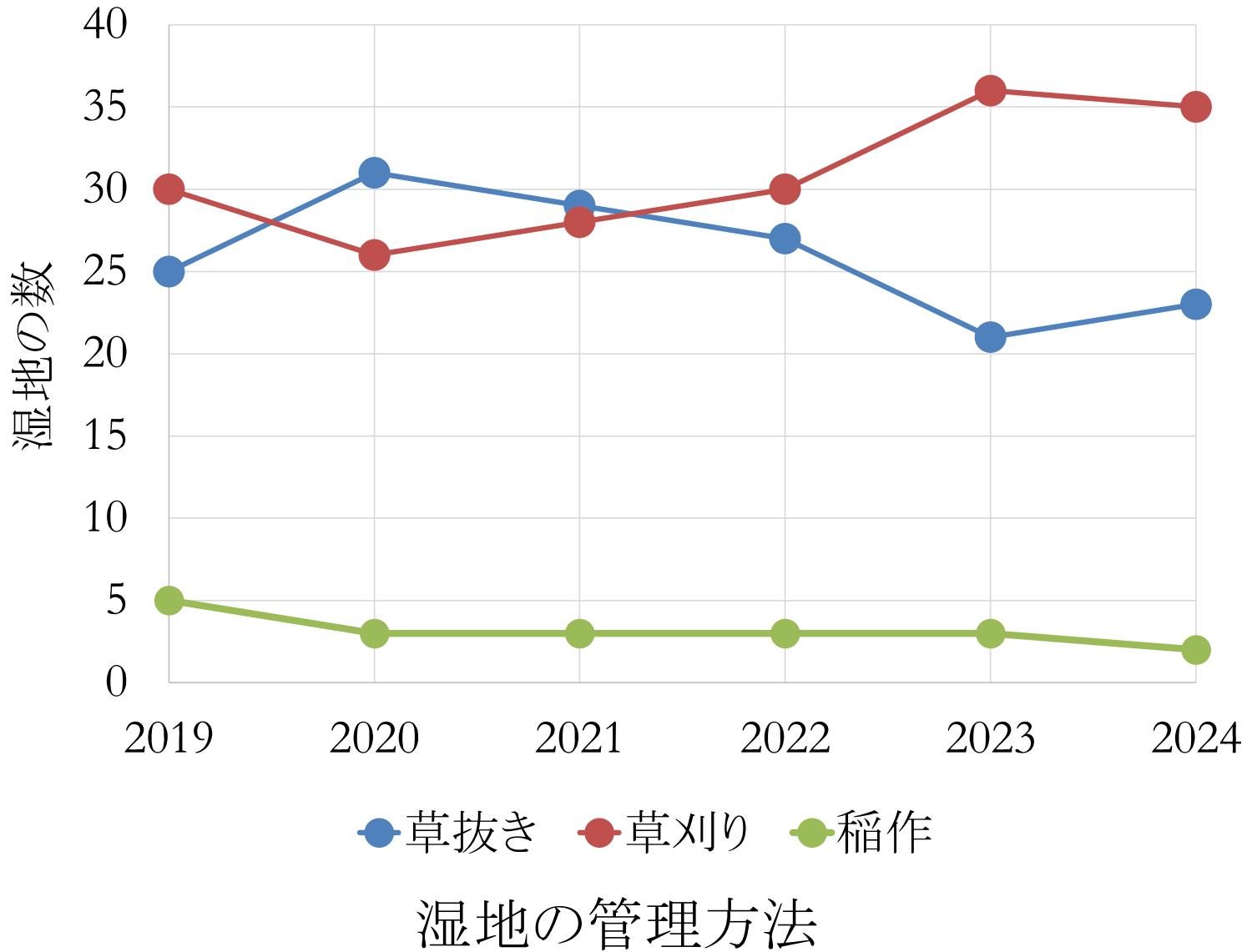


図 地下水位と湿田

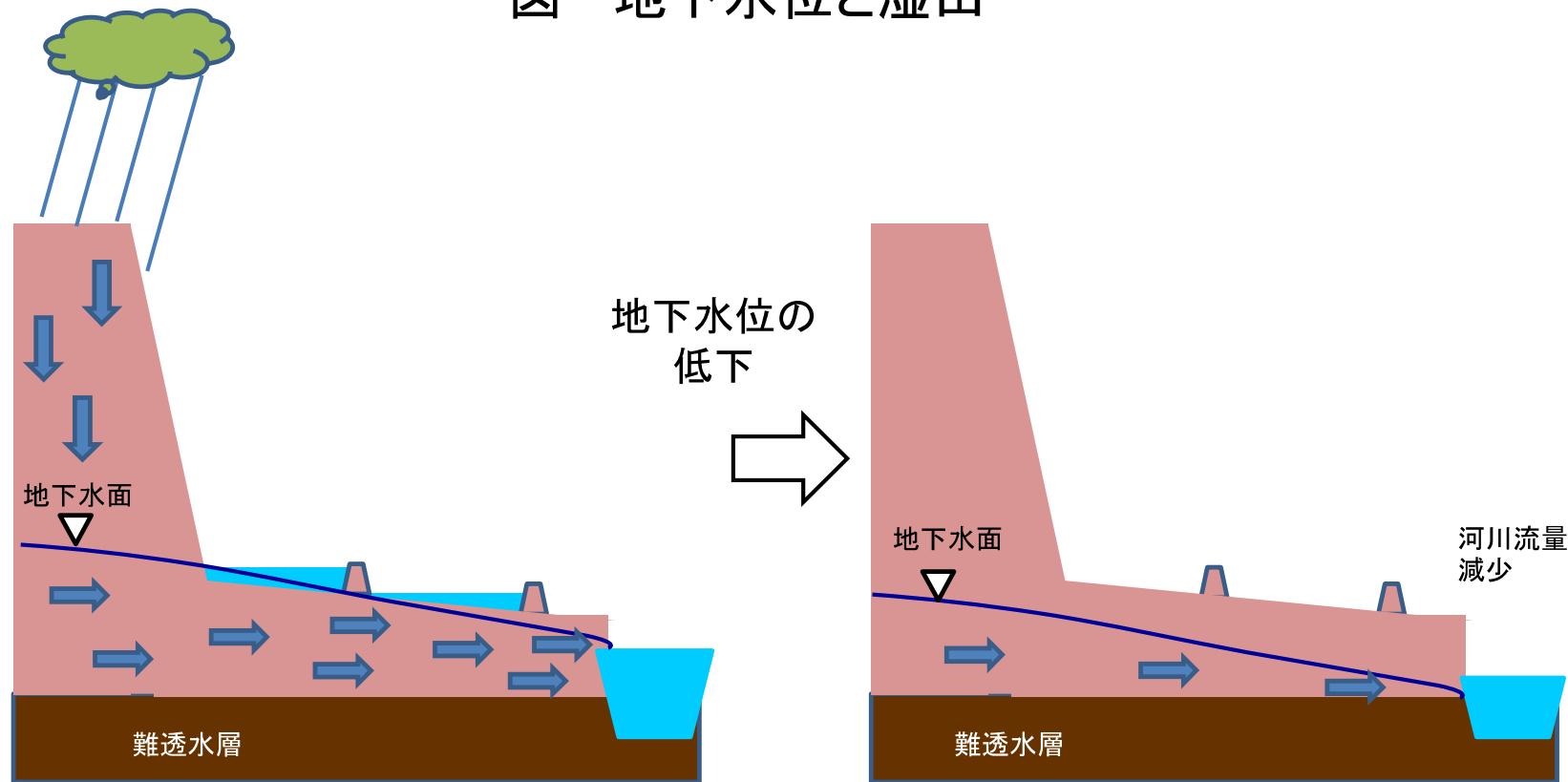
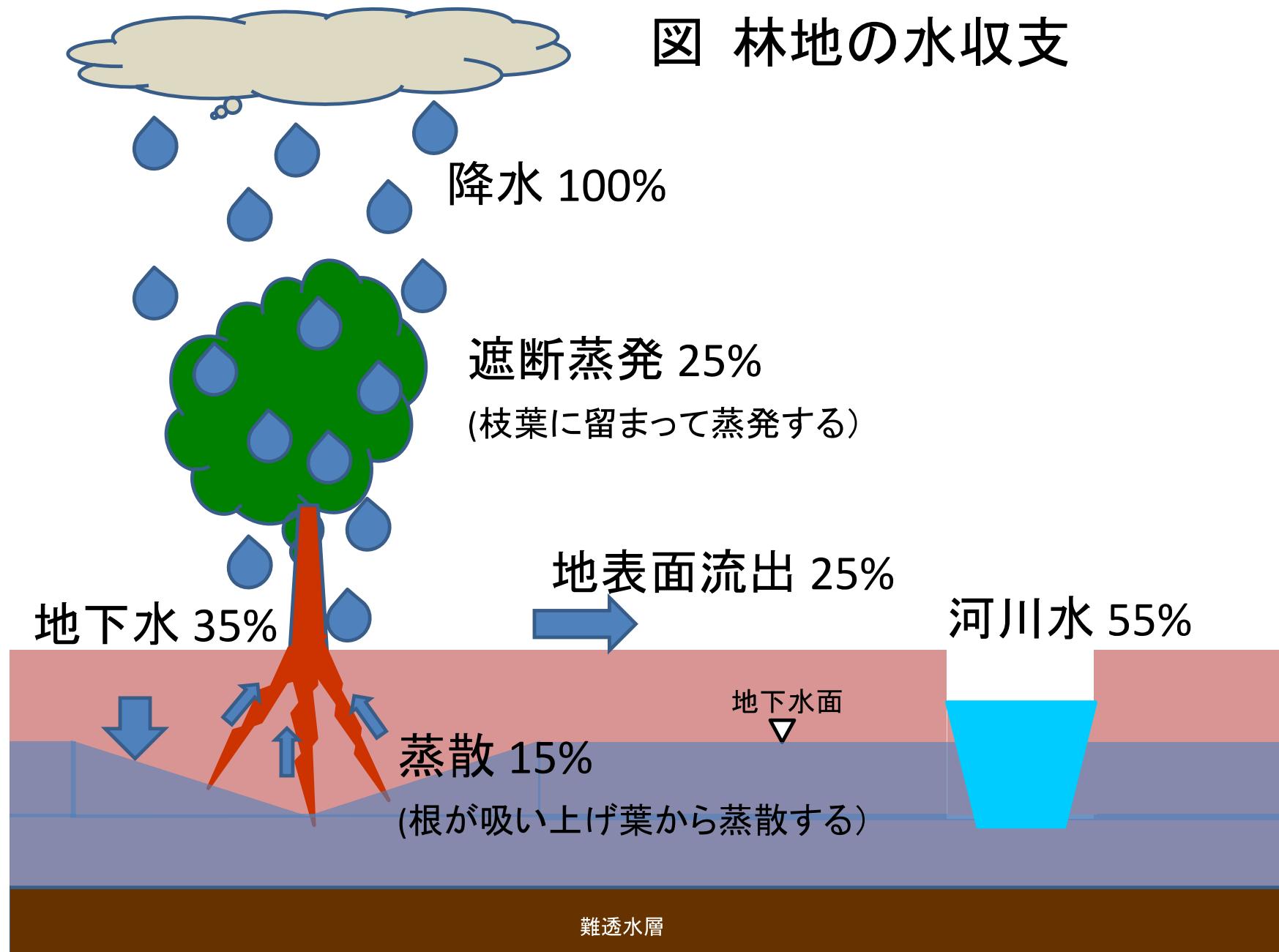
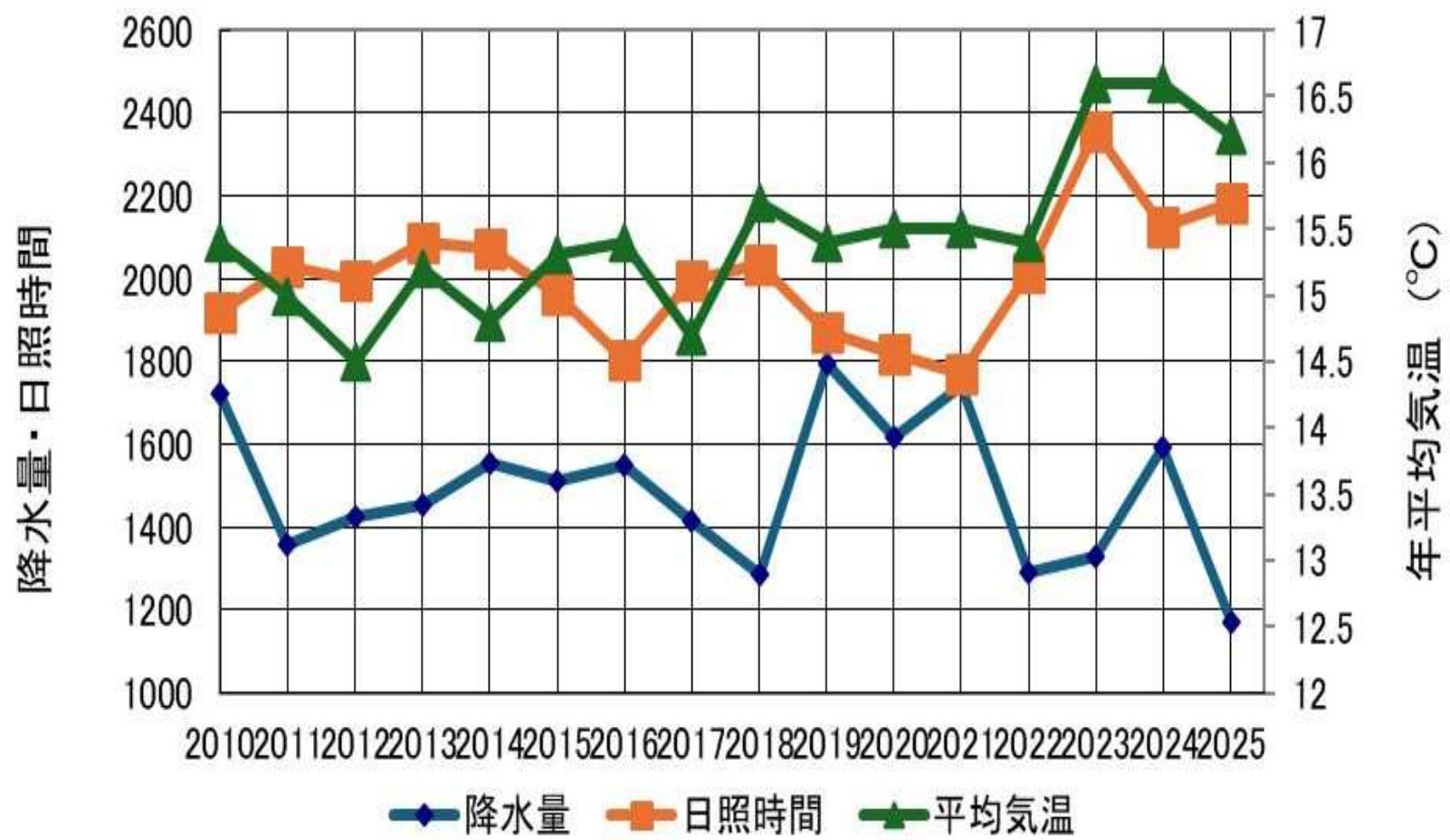
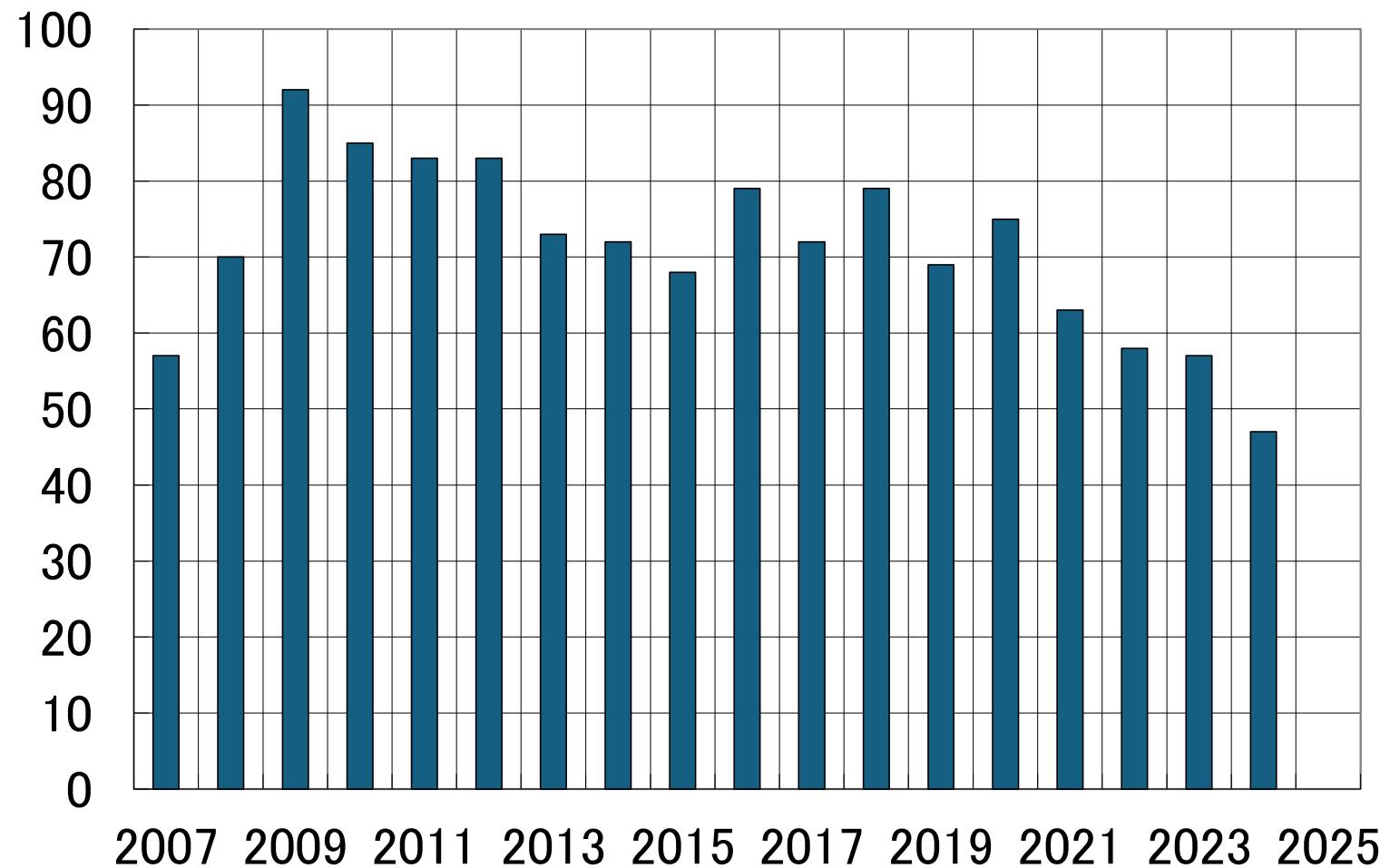


図 林地の水収支





佐倉市の平均気温・降水量・日照時間の経年変化



会員数の推移

**他の生物のための生息環境を保全する
ような悠長なことに、何か意味はある
のか？**

**地球や自然環境を人間社会の「外部」
として扱うことはもはや時代遅れでは
ないのか**

**自ら語らぬ地球の声を聴くためには、
自然にはたらきかけ、その手触り感と
ともに、その声を感じ取ることが必要**

共感の輪を広げる

地球を共感の対象とし、共同体感覚で地球のことを考える。

